

今年、灯台150周年です

現在、全国にある灯台の始まりは、明治の初めに導入された洋式灯台にさかのぼります。

江戸末期、英・米・仏・蘭の4か国が、関門海峡を舞台に長州藩と戦った下関戦争の賠償の一環として、開港した各港への灯台の設置を約束させ、1番目に建設された灯台が、神奈川県横須賀市にある観音埼灯台です。

明治元年11月1日に、この観音埼灯台の建設を着手しており、この年を基点として、平成30年は、灯台の近代化150周年にあたります。

対馬の主な灯台

灯台150周年にあたり、対馬に設置されている主な灯台を毎月順番にご紹介します。

その6 対馬一重港島防波堤灯台 対馬一重港沖防波堤南灯台

対馬一重港島防波堤灯台及び 対馬一重港沖防波堤南灯台は、一重漁港の入り口を示している灯台です。

この灯台の踊り場に数年前から「ミサゴ」が巣作りを行うようになりました。

一重漁港（長崎県対馬市上対馬町）



平成30年3月3日ミサゴの巣を確認



対馬一重港島防波堤灯台

対馬一重港沖防波堤南灯台



この防波堤灯台は、昼間に太陽電池でバッテリーを充電し、夜間に灯台を点灯させています。対馬海上保安部では、通航船の安全のため、灯台の灯を守りつつ、ミサゴの成長も見守りたいと思っています。



「ミサゴ」データベース（英名：オスプレイ）
体長：約60cm
翼を広げると150～180cm
体重：1.2～2kg
分布：極地を除く全世界
生態：5～7月に水辺の岩や樹の上に木の枝を組んだ
巣を作り2～3個の卵を産む。雛鳥は52～53
日で巣立ち、1～2か月で親から独立する。

平成29年5月に確認したミサゴのヒナと卵。

